

『主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」』

創世記 第2章 18節

◎ 9月の予定

- 1日(水) 始業礼拝
- 2日(木) 時間割変更期間 ～10月1日
- 10日(金) 聖書教室
- 17日(金) 創立記念礼拝、教務委員会
- 19日(日) 創立記念日
- 24日(金) 教職員協議会
- 25日(土) 学校説明会(オンライン)

◎ 10月の予定

- 2日(土) 県総合体育大会陸上競技の部  
(三ツ沢陸上競技場)
- 12日(火) 校内研修会  
中学校教科テスト期間～15日まで  
教務委員会
- 15日(金)



オクラの花



キュウリの花



ニチニチソウ



夏休みの花壇・畑から

◎ 今後の行事から

【創立記念礼拝】  
 本学園の創立者 澤田美喜先生のはたらきをおぼえて礼拝をお捧げします。  
 現代に生きる私たちが直面している困難をどう乗り越えていくか。澤田先生の神様に対する揺るがぬ信頼を学びたいと思います。

礼拝は、児童生徒、および教職員のみ  
 の参加となります。保護者の方の参加は  
 ご遠慮いただくことになりました。

※今後の学校行事等について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、左記のとおりいたします。  
 ①理解・ご協力をよろしく願っています。

- ・学校説明会(9月25日)  
 オンラインによる開催とさせていただきます。事前に資料を送付いたしますので、希望される方はお問い合わせください。
- ・運動会(10月9日)

今年度は中止となりました。それに伴い、10月11日は通常登校となります。  
 ・教育相談・進路相談については、感染拡大状況を踏まえながら、随時行っております。お気軽にお問い合わせください。

## 第六十八回創立記念日に

学園長 小川 正夫

毎年九月十九日、この日を創立記念の日に定めたのは、創立者、澤田美喜先生がこの世に誕生した時、すでに、神様はこの仕事を、後半生の使命として彼女に与えられていたのだと考えたからなのです。

澤田美喜先生の働きは美談として多く語られていますが、没後、その死を追悼する「広報おおいそ」には、澤田美喜先生の精神を評して、次の様に述べられています。

「世界のいたるところで、敗者、弱者、少数派を見捨て、見殺しにすることを是とし、黙認する、人間すべての中に潜む卑劣さに挑戦する人であった」

彼女の訃報をうけ、その死を悼み、大磯町議会では、開会に先立ち、全員がそろって黙祷の後、このように結んでいます。

「混血児に対して、責任を回避する日本政府と米国駐留軍当局から見放され、町では不道徳の見本の様に蔑まれ、サルの子を見るような好奇心と嘲りの中で、彼女は耐え、闘ったという女史の生涯が、今我々に訴えるものは何か。彼女の人生が我々に残したものは何か」

澤田美喜先生は、常に、子ども達一人ひとりは神様から預かった大切な命なのだから、置き去りにしてはいけない。子ども達には、自分の置かれている環境を、誰も理解してく

れない、周りが悪い、社会が悪い、政治が悪い、先生は何もしてくれない」などと、他人のせいにして、不満を持つたりしないよう、常に言い聞かせていました。

そして、足りないもの、失われたもの、失われたと感じる将来を、子ども達一人ひとりが努力して、自分の将来を自分で掴み取る力を持つことができるように、手助けしよう、私の後半生の生涯をこの仕事にかけていこうという使命感を強く覚えたと言っていました。そして、子ども達が悲しい思いをすることがあっても、親を恨んだりしないこと、境遇にこだわって、荒れた気持ちにならないよう、何時も祈っていたそうです。

澤田美喜先生の心意気に感じ多くの人達がその働きを支えていましたが、私の学生時代同期の友人達も、今考えると、卒業後すぐに、与えられる報酬を考えず、使命感を持って学園やホームの働きに加わり、献身的に仕事をしていたことは、今でも記憶に残ります。

野村悦子(後の立教女学院高校教頭)、猿田順子(後の聖ステパノ学園英語教諭)、大久保忠昭(後の聖ステパノ学園事務長)、小笠原忍(後のエリザベス・サンダース・ホーム理事長)。そして私達の師である松下正寿(立教大学総長)、有賀千代吉(立教小学校校長)、小川清(立教女学院小学校校長)の諸先生がおられました。

私が立教小学校校長職を終わり、二十四年前、聖ステパノ学園に赴任したころ、大久保

忠昭事務長から「聖ステパノ学園は、ほかの私学のように、先生が子ども達を選ぶのではなく、子ども達が、自分達に必要な人として、私達を選んでいるところが違います」と教えてくれたことを今でも忘れません。

今、緊急事態宣言下で、私達は様々な制約を受ける社会の下におかれています。人々が親しく交わることができません。楽しく会話すること、みんなで楽しく食事することも自粛を求められています。毎日のように、数千人の感染者が生まれ、亡くなる人もいます。経済活動も停滞している状況です。

一年半の行動規制でも、感染者数を累計すると百万人を超える状況であり、十数万人の罹患者が入院できず在宅診療を余儀なくされています。ウイルスは変異進化し、状況は災害に近い状態と位置付ける専門家がいます。

様々な場面で「かつて経験したことのないような」という言葉が使われており、最近子ども達を守る緊急事態ではなく、もはや災害状況とよんでいます。災害時に最も深刻な被災者になるのは弱い立場や孤独な人、子ども達だとすれば、学校に通う子ども達の健康管理、感染予防こそは最優先課題で、少しぐらいは仕方がないでは許されません。

物事が思うように進まないとき、誰が悪いとか、誰のせいだとか言っても解決しません。自分自身の最善を尽くすことです。

感染症から、しっかり子ども達を守ろうという澤田美喜先生の声が聞こえるようです。

自分と未来は変えられる

小学校教頭 長谷川 誠子

子どもにとって楽しみな夏休みですが、今年度も新型コロナの感染拡大が収まらず、我慢と制約の多い休みとなってしまいました。猛暑に豪雨と、天候も今までとは大きく違う様子に不安を感じることもあったのではないのでしょうか。今年の夏は子ども達にとって、のびのびと過ごせる夏休みであってほしかったのですが残念です。

そのような中ではありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催に関しては様々な意見もありましたが、選手の熱い戦いにたくさん感動を得て、元気をもらうことができました。無観客ということで実際に観戦することはできませんでしたが、テレビを通して様々な競技を見ることができました。今回は新しい競技にも注目が集まり、若い世代が大いに活躍しました。

どの競技の選手も技術を磨くために、たくさん練習に励み、長い期間、準備を重ねてきました。その過程は辛く大変なことも多くあったでしょう。しかし、その競技に対する熱い思いや夢が、辛い練習をも乗り越えるエネルギーになつていたのではないのでしょうか。自分の得意な事、好きな事に諦めずに取り組み、努力し続けた先にある選手達の姿を子ども達にも知ってほしいと思います。どんな

事でも自分の好きなこと、一生懸命になれることを持っている、自分の思いや世界は変わってくるように感じます。

しかし、そういうものに出会うことはなかなか難しいのではないかと思っていました。ところが、サーフィンの五十嵐カノア選手のインタビュで「波はたくさん来ている。それをつかまえて、乗るか乗らないかだ」というサーフィンのライディングの話から、意外に自分達の周りには一生懸命になれるものがいろいろあり、それをものにできるかどうかは、自分でそれをつかみ取るかどうかにかかっているということを感じ、新たな認識を持つことができました。

多くの選手が発信する言葉や、競技に取り組む姿勢は、私達の生き方にも大きな影響を与えられるものがたくさんありました。

その中でも、パラリンピックの車いすラグビーからはいろいろなことを思われました。競技について、また、選手についての特集番組は心に強く残り、その後の試合も楽しみとなりました。試合の中では選手一人ひとりの障害の状態に合わせた役割があり、戦略があります。車いす自体の形状もプレーにあったものとなっています。それぞれが上手く役割が果せると得点につながります。チーム全員が一丸とならなければ得点することができません。唯一、車いすですぶつかる事が許されている競技だそうで、迫力のあるプレーと頭脳戦に魅せられました。

様々な背景を持っている選手達は、車いすラグビーに出会い人生が大きく変化しました。生き生きと希望をもってプレーしている姿から、こんな言葉が思い起こされました。

「自分と未来は変えられる」という言葉です。オリンピック、パラリンピックの選手にびつたりの言葉だと思えます。過去に囚われず、自分で未来を変えていく強さと逞しさに感銘を受けました。

それぞれの個性をお互いが理解して受け止め、一緒にゲームを作り上げていく様子は、私たちの生活においても大切なことではないかと思われました。私達が生活し活動する上において、一人ひとりの状態に合わせた助けとなるものが、必要になる時があります。そんな時にはお互いが理解しあい、受け入れあつて、共に歩むという思いを忘れずに持っていたいと思います。また、子ども達の心にも育んでいきたいことです。

二学期もいよいよ始まります。一学期は感染対策をしながらの対面授業を行い、また、縮小した形でしたが、遠足やデイキャンプなども行うことができました。久しぶりの校外での活動に子どもたちは大喜びでした。しかし、今学期の学びがまたどうなるのか心配な状況ではありますが、過去や現在が思い通りの状態でなくとも自分と未来は変えられるのです。子ども達にとって少しでも良い学びができるよう、新しい関係が広がるような学校生活を作っていきたいと思えます。

旧職員 小澤 和子

カッコウの鳴き声で目覚め、カーテンを開ければ窓からは広い空と美しい山々が毎朝表情を変えて私を迎えてくれます。今は昼間は暑いとはいえ木陰に入ると爽やかで、湘南とは違った夏を感じます。そんな信州の暮らしも早5年になりました。ここ塩尻市はブドウの産地でシャインマスカットがあちこちに実っています。私の家の前にはブルーベリー畑があり、新鮮なブルーベリーを山ほど買うことができます。アスパラはびっくりするほど太くて美味しく、山形村の長芋は絶品です。(リンゴやお蕎麦は言うまでもありません) そんな神様からの恵みをたくさん頂いて、コロナ禍でも私はお陰様で元気に暮らしています。

新しい土地で、ステパノのことは忘れ、のんびり生活しようと思っていたのですが、長いステパノでの学びは私の心と体にしっかりと沁みついて離れることはありませんでした。そして新たな出会いの中で、また私立小学校で図工科の講師をさせていただいています。

こちらでも図工の授業は、とても楽しくて、子ども達の笑顔や素敵な作品に出合うことが私の一番の喜びになっています。「私って図工が好きだったんだ」と今更ながら気づきました。そして、今の学校はキリスト教主義の学

校ではありませんが、子ども達とのかかわりの中で、ステパノでは当たり前であった聖書の御言葉や小川校長先生のお話が必要になっています。離れてみて聖ステパノ学園には教育に必要な大切なものが全て揃っていたと確信しました。それで、今の学校の先生にステパノのことを熱く語ってしまいます。すると何人もの先生に「先生、そんな学校を信州にも創ってください」と言われ、「先生、私お手伝いしますから」と言ってくれた若い先生の言葉に背中を押され、「始めの一步」として近くの公民館でワークショップを始めました。

グループ名は honto の manabi. そして「It's okay to be different」を motto に活動をしています。そして聖ステパノ学園の教育をたくさんの方に知って頂きたいと思っています。

毎日礼拝があつて静かな時間を持てること、岩崎山が四季折々の素敵な表情を見せてくれること、みんながみんなの名前を知っていること、一人一人の居場所がちゃんとあること、美味しい給食が提供されること、縦割りの活動がたくさんあること、自分の力をそれぞれが発揮できる楽しい行事がたくさんあること、先生たちが職員室でたくさん語り合っていること、毎月会議があり自分の意見をちゃんと言えること、みんなで話し合つて色々な事を決めていること、研修会が積極的に行われていること、などなどステパノでは当たり前かもしれないことが、まだまだ地方の学校では

当たり前ではありません。そして最も素晴らしいのは、先生方は子ども達一人一人を大切に、神様から頂いた賜物をしっかりと見出し、光らせていることです。ステパノでは当たり前と思われることがどこの学校でも出来ているか? というところではないのが現実のようです。一つの価値観でしか評価されない子どもたちは、学年が上がるにつれ

「僕たち、問題児だから・・・」  
「先生無視していいですよ」

など自己肯定感をどんどん下げてしまい居場所がなくなっている子どもも少なくありません。

あなたは、世界に一人だけの大切な存在、神様が「よし」とされた素晴らしい人だと伝えたい、もっと笑顔で過ごして欲しい、もっと自分を好きになって欲しいと思います。

そのために私は小さな力ですがステパノで学んだ愛の種をたくさん蒔き続けたいと思っています。そしていつか、「聖ステパノ学園信州校」ができて、山の学校、海の学校として交流し、お互い切磋琢磨出来たら素晴らしいだろうなと大きな夢を描いています。

コロナ禍で不自由な生活を強いられ、まだそちらに何うのは難しいですが、校長先生がよく仰っていた様に、明けない夜はありません。安心して移動ができるようになったら、また伺いたいと思います。honto の manabi の先生方も是非ステパノ学園を訪問したいと言っています。どうぞよろしくお願ひします。

コロナに負けないために

養護教諭 土橋 久美子

一学期を終えて間もなく、新型コロナウイルス感染症が爆発的に増え、これまでは感染や重症化の恐れが少ないといわれていた学齢期以下の子どもたちの感染も増えています。学園では二期の始業を遅らせる対応を取ることで対応しました。昨年度の休校期間は、学校での感染を防ぐ意味では有意義でした。しかし、一方では学習面の心配や社会性の学びが得られないという問題も浮き彫りとなりました。

学校で感染が広がることを防ぎつつ、学びを続けるには学校での感染対策をもう一度全員で確認し、子どもたちに自分事として感染対策を実施してもらうほかありません。

学校では、教室等の常時換気をしながら活動を行っています。また、感染の状況に応じて異学年間の交流を伴う活動は行わず、各学年で実施するなど、活動の規模を縮小しています。

外遊びなどでマスクを外していた子どもがマスクを着け忘れたまま教室に戻ってくることもありますが、声をかけてマスクの着用をうながし、手洗いとともに子どもたちの習慣になるように指導をしています。

子どもへの感染は、学校だけでなく家庭での感染例も少なくないようです。新型コロナウイルス

ウィルスの流行初期から治療・研究にあたる大阪大学の忽那賢志教授によると、家庭での感染対策として、

- ① 帰宅後、すぐに入浴して外からウイルスを持ち込まない。
  - ② 特別な理由がなければガーゼマスクやウレタンマスクではなく、不織布マスクを着用する。また、家族に体調不良者がいる場合は家庭内でもマスクを着用する。
  - ③ こまめに手を洗い、部屋の換気をする。
  - ④ 生活圏を出ない。
- などが挙げられていますのでご家庭でも参考にしてください。

また、ご家族や本人が陽性になった場合やPCR検査を受ける場合、濃厚接触者になった場合は学校にご連絡の上、登校は控えてください。このような場合は保健所の指示に従った行動をとっていただき、療養期間が終了してから登校の再開をお願い致します。忽那教授によると、新型コロナウイルス感染症は、発症の3日前から発症後5日が最も感染させる力が強く、中等症までの場合は発症10日後、重症者も発症20日後には感染性がなくなっているというデータが示されています。対策をしているいても感染することはあると思います。療養期間が終えたら元気に学校に来てください。コロナによって人同士の気持ちにまで距離があいてしまわないように、感染対策だけでなく、エビデンスに基づいた判断も伝えていこうと思います。

教職員異動のお知らせ

【小学校】

教諭 高桑 恵 退職

教諭 林 健太郎 新任  
教諭 井手 隆太 新任

【学園】

副校長 佐藤 紀明





きょう、おうちの  
にわで、イエロ  
ートマトをとりま  
した。あまくてお  
いしかったです。  
またたべたいで  
す。

小1 S. J



パパとママとひ  
らつかそうこうこ  
うえんであそびま  
した。ながいすべり  
だいがたのしかり  
たです。かきこり  
がつめたくておい  
しかったです。

小1 N. T



**小4  
自由研究**  
オリ  
ンピック  
について調  
べました。



きょうは、はじ  
めてひとりでお  
かひものへいきま  
した。チョコレ  
トとジュースをか  
いました。ひとり  
でおかひものでき  
て、うれしかったです。

小1 E. Y

今日、社会の歴史資料を集めるために、小  
田原城に行きました！北条氏のところは、鎌  
倉幕府の終わりの話なので、まだ先です  
が、まあ予習として。

小田原城は、もう何回も行ってますが、何  
回行ってもカッコイイです!!  
天守閣と、SAMURAI館に行きました。ど  
ちらも、刀剣や甲冑などがあり、とてもかっ  
こ良かったです。

昔に行ったときよりも、歴史を知っている  
ので、書いていっていることや、  
展示してあるものがよくわ  
かって、楽しかったです。

これをどうやって新聞に  
まとめるか、考えながら写  
真などをとっていたので、  
いい新聞になるといいです。

小6 I. H



今日、家のあみ戸にセミ（アブラゼ  
ミ）がとまっています。いつものよ  
うに木にとまっていると背中からしか  
見えないから、はんたい向きの止まっ  
ているときのセミ（手で持っているとき  
以外）は初めて見ました。

小6 N. O

**6年 自由研究より**

「浮く力の実験」F. C

タレピンにい  
れる空気のを  
変えて、浮き上  
り方の違いを調  
べる実験。

身近な道具で  
楽しく実験がで  
きました！



「和紙のランプシェード」A. K

風船の型に合  
わせて、カラフル  
な和紙を貼って  
作った、きれいな  
灯りの手作りラ  
ンプシェード。

制作過程もバ  
ッチリまとめま  
した！



「中学校」中学校では、「コロナ感染対策を十分行いながら、夏休み中の部活動や各種補習を実施することができました。中学校生活最後の夏休みを、それぞれに過ごした中学三年生です。」

夏休みの日々

中3 N・D

中学校生活最後の夏は、特に受験勉強一色でした。

今年は、家で勉強しているだけではなく、学校の図書室で自主的に勉強したり、漢検や数学、英語の補習をやったりしました。勉強は、自分なりに計画を立ててやってみ

ました。計画に従ってやってみることで、分からないことも分かるようになりました。もちろん勉強ばかりではなく、部活もあり

ました。体を動かすことができ、あと、友達とも会えてうれしかったです。

休み中の経験をもとに、夏休み後も計画を立てて勉強し、高校受験に向けて頑張ろうと思います。

経験を生かす

中3 F・Y

「足が速くなりたい」という純粹な気持ちで陸上部に入部してから三年以上がたつ。今一度、陸上部としての自分を振り返ってみることにした。

一年目の自分は、とにかくけがが多く、練習についていけていなかった。一度、二か月近く走れないけがを経験したこともあった。

二年目、三年目で、ライバル意識がとても強くなった。ライバルと競い合い、負けた時はとても悔しい。その時の感情は、今でも鮮明に覚えている。

そして、中三になった今、タイムが伸びてきたことで、「足が速くなりたい」気持ちがいつそう強まった。

けがをして走れなかったり、練習がきつかったり、結果が出ないこともあった。けれど、諦めずに陸上を続けてくることができた。決して自分だけの力ではない。たくさんの方に支えられていることを忘れないようにしたい。

この夏休みも、陸上部の練習に打ち込んだ。記録会は中止になったが、中郡の大会は実施された。そして、僕は、初めて県大会に出られることになった。

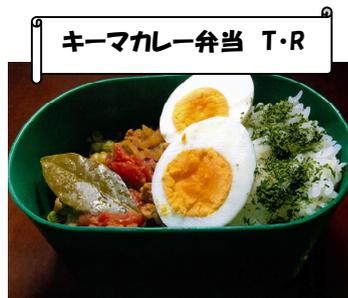
トラックで走れる大会は、この大会で最後だろう。だからこそ、今までの経験を生かして、ベストを尽くしたいと思う。



校内で行われた漢字検定。小中学生 40 名が受検しました。結果が楽しみです。



ヘルシーなオムライス弁当 T・M



キーマカレー弁当 T・R



唐揚げ弁当 T・M



シンプル・イス・ザ・ベスト弁当 H・H



栄養バランスばっちり弁当 A・N



酢豚弁当 Y・M

中学3年 家庭科 夏休みの宿題 「お弁当作り」





今号は、赤田祐章先生にお話を伺いました。  
——どのような学生時代でしたか？

「小学校では、キリスト教との出会いがありました。毎日の礼拝で、聖歌や聖書の御言葉、礼拝の雰囲気心地良さを感、自然と洗礼を受けたと思うようになりました。その後、本校着任後に受洗のお恵みを授かりました。

また、幼少期に習い事として始めたスイミングを長く続け、高校時代まで水泳の選手として様々な大会に出場しました。長距離が得意で、中学生個人の部では、一五〇〇メートルで関東大会出場、同じ大会の団体の部では、四〇〇メートルフリーレーで優勝し、翌年の保健体育の教科書に記録と名前が載りました。水泳をきっかけにスポーツが好きになり、社会人になってからもサッカーの審判の資格を取得し、県リーグを中心に年間五〇〜六〇試合ほど担当しました。サッカーの選手経験はなかったのですが、審判から始めて興味深くなり、今では本校のサッカー部での時間がとても楽しいものになりました」

——子どもの頃から教員志望なのですか？  
「教員になるまでは、紆余曲折がありました。小学校の教員をしていた兄の様子から、教えることは難しい、教員にはなるものではない

と思っていたほどで(笑)、社会心理学を専攻した大学卒業後は、一般企業に勤めました。しかし、早朝から深夜までの激務で体力の限界を感じ、二年程で離職しました。

次は何をしようかと考えていた時に、ちょうど聖ステパノ学園の学園長に着任された小川正夫先生から、学園へ見学のお誘いをいただきました。実は、私が立教小学校六年生の時に、隣のクラスの担任の先生が小川先生で、私も社会の授業を小川先生から受けていた教え子なのです。そして、それまでに感じたことのないような温かい学園の雰囲気や、小学生の女の子が、ある小さな心の変化で一瞬だけ見せた笑顔が印象的で忘れられなくなり、成績や評価だけではなく、人として大切なものを大切にできるこの学校で先生をやってみたいという気持ちが芽生えました。そこから、教員免許を取得しようと、通信制大学で二年間学び直しました。教育実習も本校で、佐藤紀明先生や長谷川誠子先生にお世話になりました。願いが叶って本校に着任でき、本当に良かったと思います。今年で二十一年目ですが、これまでさまざまな出会いに助けられ、導かれたことが多くあったので、人が困っている時には、率先して手を差し伸べたいという気持ちが強くなりました」  
常に穏やかな雰囲気の赤田先生、様々な子ども達をおおらかに受容し、日々向き合ってくださいるお姿には、沸き立つ心で希望された教員の道への静かな熱意が感じられました。

## STEPHEN'S NEWS

### 【表彰】

◎第29回中郡陸上競技選手権大会

・中学男子砲丸投 第1位 T・R  
・中学女子800m 第2位 Y・A  
・中学女子砲丸投 第1位 T・M

◎令和3年度中郡中学校総合体育大会

### 陸上競技の部

・男子200m	第3位	H・H
・男子400m	第2位	M・K
・男子800m	第3位	O・S
・男子砲丸投	第2位	M・K
・男子砲丸投	第3位	O・S
・男子砲丸投	第1位	T・R
・女子800m	第3位	M・A
・女子砲丸投	第1位	T・M

### 《お詫び》

7、8月号の「夏の座談会」の記事中、文意の通じない部分がありましたことをお詫び申し上げます。

【編集後記】二度目のコロナ禍中の夏休みを終えて学校に戻ってきた子ども達。元気です。(た)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校  
ステパノだより編集委員会

〒225-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298  
FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二一年九月十六日(木)発行 第257号